

ジュニア育成の現状——笹塚ボウル編 (井口直之・(株)京王興産ボウリング事業部長に聞く)

## 『ジュニアはボウリングの未来』

▶ジュニア開発はボウリング場の収益につながらないという先入観があるが、それを覆したいと井口プロ



▲井口プロ自ら指導する笹塚中学の部活風景。「生徒からユニフォームをとという声も出ているので、4月までには作ってあげたい」

少子化に加えて、子供たちの趣味趣向が多様化する昨今、ボウリングに限らず各スポーツの現場では子供たちの興味をひくことに苦戦している。そんななかでもここ数年、ジュニアの開発・育成に力を入れ、目覚ましい成果を挙げている笹塚ボウル(東京・渋谷区)。3年前にトーナメントからの卒業を宣言し、ボウリング事業部長としてセンターの運営に本腰を入れる同センター所属の井口直之プロ(41期)に、その取り組みを聞いた。

## 公立中にボウリング部

渋谷区立笹塚中学校の部活動を笹塚ボウルでやっているという話を聞いて、その練習日(水曜日)に合わせて取材にうかがった。

「今年の1月に、笹塚中学のオンライン授業の講師をやったんです。ボウリング場からボウリングについて講義を行い、その後学年ごとにボウリング大会を開催したところ、生徒の反応がよくて、校長先生から『これは部活にしようよ』とおっしゃっていただいて、とんとん拍子に話が進み、4月に正式にスタートしました。調べてみると、公立中学校にボウリング部ができたのは初めてということでした。現在は16名の部員が在籍して活動しています」

それがきっかけとなったのか、渋谷区にある公立の8校で、合同の部活を立ち上げるという話が進行中だそうだ。

「笹塚中は現在全校で120人ぐらい。笹塚中に限らずどこも生徒数が減少しています。その少子化に加えて、学校の先生の働き方改革というのが大きなテーマになっていて、解決策のひとつとして渋谷区では、学校単位ではなく横断的な部活動改革プロジェクトというのを立

ち上げたんです。私もプロジェクトのメンバーに入れてもらっていて、本格始動は来年の4月からになります。テスト期間としてボウリングのクラブ活動が、11月13日に笹塚ボウルでスタートします」

それには、先行して始めた笹塚中学の部活動の実績が大きかったが、それ以外にも小学生を対象としたジュニアボウリング教室や、都のジュニア育成地域推進事業に積極的に関わってきたことも後押しをした。

「ジュニア教室で楽しさを知った子供たちが中学に上がる時に、継続してやってもらいたいので、学校の先生方に『授業でボウリングをやってみませんか』とか『部活を作ってみませんか』というような話を冗談半分でしたのが、現実になりました」

## 小学生対象の教室は盛況

井口プロがジュニアの開発に目を向け、小学生を対象にしたジュニア教室を積極的に行うようになったのは、2008年ころからだという。

「東京都体育協会と教育委員会の共催で、渋谷区と杉並区のボウリング連盟と協力しながら、うちが運営する形で行って

います。春休みや夏休みなど学校の長期休み中に実施していますが、毎回定員いっぱいになります。最近は、受け付けを始める前から『今年はないんですか』と、子供の方から問い合わせがくるほどです」

この事業には、施設利用料として行政から補助が出ているそうだが、その裏には、都の体育協会や教育委員会などの地道なパイプ作りがあった。

「例えば渋谷区が主催するイベントには、いつもミニボウリングを持って行って出展したり、日ごろから社会貢献事業に積極的に関わるようにしています。そうして信用を積み上げていったというのはあります。あるとき、学校の校長会でジュニア教室のプレゼンテーションをさせてもらったんです。『じゃあ学校で募集をしますよ』と言ってくださった。普通ならボウリング場に来た子供だったり、連絡先のわかる子に呼びかけるのが基本だと思うけど、一気に全校生徒に案内が出せるようになりました」

この教室では「感謝・礼儀・思考力」の3つを常に呼びかけるなど、人間形成に重きを置いている。

「他のスポーツに比べて、校外ということもあってどうしても遊びに行くような感覚になりがちなので、挨拶から始めるようにしています。そして技術指導よりも、あくまでもボウリングの楽しさを知ってもらうための教室なので、バンパーを立ててやっています」

同センターでは、教室でボウリングに興味を持った子や、物足りなさを感じた子に対しては、ジュニアアカデミーを設けている。現在は小学生が対象だが、中学生を対象にしたアカデミーも準備中とのことだ。さらには、競技として本格的に取り組みたい子を対象にしたジュニアクラブも運営している。

## より広くネットワークを

「アカデミーは最初、20名程度の定員で月曜にやっていたんですが、あふれてきたので火曜、水曜を追加して3コースになっています。3カ月通うとマイボールをプレゼントしていますが、これが結構モチベーションになっているみたいです」

一方で競技者養成を掲げるジュニアクラブは、小学生から高校生まで幅広い。

「もともと地域の社会貢献事業として始めたので、入会金1万円、月謝5千円と安く設定しています。練習日は週5日設けていますが、他の習い事をしている子もいるので、来るときに来なさいねという形です」

クラブからはナショナルチームメンバーや、全国高校対抗選手権の優勝者なども育っている。

「今年国体は中止になりましたが、東京都の成年男子代表4名はすべて、このジュニアクラブの卒業生でした。そういう実績については、行政から活動への補助を頂いている分、こういう成果がありましたという報告を必ずするようにしています」

今新たに取組もうとしているのは、笹塚ボウルというセンターの枠を超えて、広くジュニアを組織化することだ。

「来年の4月から、毎週土曜日にさまざまなジュニア向けの企画を打っていきこうと思っています。その環境整備として、ジュニア教室などこれまでの取り組みをアピールしながら、行政や企業などいろんなところに協力を募る取り組みを始めています。これは笹塚ボウルだけの事業としてやってもしょうがないので、ゆくゆくは東京全体で…と思っていますが、とりあえずうちを含めて6センターある城南地区で進めていきます。まずは“ジュニアボウリングプロジェクト”の公式LINEの立ち上げをして、告知のツールを作る準備をしています」

夢は広がるが、目的意識を共有するセンターが増えることが、実現への早道なのだろう。「ジュニア開発について聞きに来てもらえば、包み隠さずいくらでもノウハウをお話します。私もジュニアクラブのあったセンターで勉強させてもらって、私なりにアレンジしてやってきました。それぞれ地域によって事情も異なると思うので、いいところを吸収して自分のところなりのアレンジをすれば、よりいいものができると思います」



▲ジュニアクラブの練習風景。この日参加していた男子は12名中11名が両手投げだった



▲ジュニアアカデミーは黄色のユニフォームで統一。井口プロの息子でナショナルチームメンバーでもある遼太さんが中心になって指導を担当